

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪城に臨む学び舎で、「強き信念(まこと)・高き理想(のぞみ)」の理念のもと、人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人物を育成する高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、高邁な志で自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育によって、仲間とともに活動する喜びを知り、真摯な取り組みを称え合う経験の積み重ねから、豊かな人間性を涵養する学校
3. 日々の教育活動に加え、充実した海外プログラムなどによって、豊かな国際感覚を身に着けた、国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、高邁な志で自己実現の達成を図る

- (1) 新たな大学入試制度に対応し、学習指導要領を踏まえた教育課程を円滑に実施する。
 - ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
 - イ 課題研究活動の内容を深化させ、探究的な学びの充実をはかる。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)第IV期としての教育内容を充実させる。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 進路検討会議の継続をはじめとした取り組みの充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 生徒の進路実現を支援し、国公立大学70%(現浪)を実現する。(R2 63% R3 63% R4 58%)
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業の充実を進め、CEFRに対応した校内スピーキングテストを充実し、実践的英語力の向上を図る。
- (5) ICT化対応の教育の推進と効果的な65分授業を実施する。
 - ア GIGAスクールの実施、生徒1人1台端末に合わせた、授業、その他の学校教育活動のICT化を進める。
 - イ 教員研修の充実等により密度の濃い65分授業を行う。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育によって、仲間とともに活動する喜びを知り、真摯な取り組みを称え合う経験の積み重ねから、豊かな人間性を涵養する

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させようとする生徒を育成する。
 - ア 1年次部活動加入率90%以上を維持する。(R2. 90% R3. 92% R4.103%)
 - イ 取り組み内容の精選を行い、自主的活動全般のレベルを上げ、意欲につながる充実感を持たせる。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。
- (4) 通級指導を全校体制で取り組み、学校教育全体のユニバーサルデザイン化を進める。

3. 日々の教育活動に加え、充実した海外プログラムなどによって、豊かな国際感覚を身に着けた、国際社会に貢献し得る人間の育成を期す

- (1) ボランティア体験活動や授業や行事などを通じて、社会貢献の意識を高める。
- (2) ウィズコロナ・アフターコロナの状況を踏まえながら、海外研修やオンライン・オンサイト研修などにより、国際感覚の向上に努める。
- (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を充実させていく。

4. 働き方改革の推進

分掌間の調整を進め、校務処理等の仕組みを見直し、効率化を進め業務負担軽減をはかる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒アンケートでは、ほとんどの項目で90%前後の肯定的評価と高い。中でも「授業」「学校行事」「部活動」「相談・支援」に関する項目については、95%以上の肯定的評価を得ている。また、「国際教育」「HR活動」の肯定的評価がそれぞれ70.1%→78.6%、85.8%→91.4%と5ポイント以上向上している。新型コロナウイルス感染症に伴う制限が緩和され、より活発に学校行事や国際交流、クラス活動が行われたことが要因だと考えられる。</p> <p>保護者アンケートでは、多くの項目で肯定的評価を90%近く得ているが、「土曜日の有効活用」「ホームページ」に関する項目が昨年度より5ポイント以上低下している。来年度は本校の教育活動を実際に見ていただく機会を増やすとともに、ホームページでも情報発信を行い、土曜日での取り組みを含めて周知していきたい。</p> <p>教職員アンケートでは、「各教科で話し合いがなされている」が68.6%(-16.0%)、「授業の方法等について意見交換する場がある」が71.2%(-17.0%)と大きく低下している。他の業務に追われ、教科内で話し合う余裕がないのかもしれない。追加のアンケート等を行い、原因を精査し、次年度は日常的に相談・意見交換できるような環境づくりを考えていきたい。</p>	<p>【第1回 令和5年7月31日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH構想について、示された図を見ると数学を重視しているのはわかったが、他教科の取り組み具合が見えてこない。仮説を立て実験を通して解明していく手法こそがサイエンスであり、その取り組みの充実を図ってもらいたい。そして、科学の甲子園や科学オリンピック等へチャレンジする生徒の増加を期待したい。 ・中学生、小学生向けの学習の場を提供していただけるのはよかった。中学生にとって魅力ある学校であり続けるように様々な企画、取り組みをおこなっていただきたい。 <p>【第2回 令和5年12月15日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(授業見学を受けて)ディスカッションが自然に行われていて、以前よりも良くなっているように思う。 ・中学生や小学生への学習会や課題研究の発表会など、広報活動をたくさんおこなっていて、(実際運営している教員は大変だと思うが)大変評価できる。 <p>【第3回 令和6年3月21日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室は先輩の姿を見て学ぶことができる。生徒間で質問できる場等の工夫が望まれる。 ・基礎学力と自己教育力育成の全教科の議論は、目標の基準を明確にする必要がある。 ・高校の私学無償化が進む中、多くの教育活動を通して成長できる公立高校の良さを伝えると共に、学力保障の視点をより明確にして地域に発信することが望まれる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、高邁な志で自己実現の達成を図る学校</p>	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 学習指導方法の更なる工夫と改善</p> <p>イ 全員が課題研究に取り組むための指導体制の確立</p> <p>ウ 明確な進路目標をもたせるための指導と、進路実現を図るための指導の充実</p> <p>エ 英語4技能の身につけるための取組みの充実</p> <p>オ ICT化の活用と65分授業の効果的な実施</p>	<p>ア 授業改善</p> <p>① 昨年度よりのSG(small group)システムを引き続き実施。グループ単位で日常的な授業見学や研究授業を実施し、積極的に授業改善に取り組む</p> <p>② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や、補習・講習の充実に努める。</p> <p>③ 生徒1人1台端末に対応した効果的な指導方法を研究する。</p> <p>A. 授業改善研修の実施 B. 定時制教員や他校教員との合同研修の実施</p> <p>イ SSH 第IV期にふさわしい 課題研究の指導体制の強化</p> <p>① SS コースの研究レベルの向上 ② LS コースの指導プログラム作り</p> <p>ウ 進路指導</p> <p>① 集中セミナー、京大研修・阪大研修の充実 ② SSH 事業における研修やマフエスタなどの実施および外部への普及 ③ 進路実現に向けた研修や講習の実施</p> <p>エ 英語4技能の取組み</p> <p>① 4技能を測る校内テストの充実 ② 外部検定試験受験の促進</p> <p>オ アクティブラーニング</p> <p>① 授業のICT化の促進と密度の濃い65分授業の実施</p>	<p>・授業アンケート肯定評価の向上(88.5%)</p> <p>・学校教育自己診断における以下の項目の肯定度の向上 「興味深い授業」[92.9%] 「到達度の低い生徒への指導」[76.5%] 「発表する力」[83.8%]</p> <p>・授業改善研修実施 ・合同研修の実施3回[3回]</p> <p>・自習室開室日における利用者の増加 [30人/日]</p> <p>・コンクール受賞数の増加[9件]</p> <p>・課題研究発表会を総計3回実施</p> <p>・学校教育自己診断 「GLHS、SSHの取組み」肯定率の向上 GL[生徒81.9%、教職員78.4%] SSH[生徒81.5%、教職員92.3%]</p> <p>・12月進路検討会議の実施</p> <p>・国立進学率の向上[現浪計58%]</p> <p>・共通テスト後の進路別講習の実施</p> <p>・授業内スピーキングテストの継続 [3年間で延べ4回]</p> <p>・外部検定受験者はA2以上を維持</p> <p>・学校教育自己診断の関係項目の向上[生徒94.3%、教職員96.1%]</p>	<p>・授業アンケート肯定的評価は88.6%、(○)</p> <p>・学校教育自己診断の各項目については、(生徒)興味深い授業94.5%、発表する力90.0%(教員)到達度の低い生徒への指導64.7%、生徒(◎)、教員(△)</p> <p>・授業相互見学は昨年度よりの「SG(small group)システム」として、教科・学年・分掌・年齢・経験を混ぜた6~7人のグループに、アドバイザー・マネージャー・メンター・メンティーを置いて、相互授業見学や研究授業を実施し、さらにグループ内にパディを置き、相互授業見学を実施(◎)、</p> <p>・定時制との合同研修2回、他校教員も交えた合同研修3回実施。(◎)</p> <p>・稼業日自習室開室日の平均利用人数は、(32人/日)</p> <p>さらに、土曜日の自習室開放を10回実施、別途新たに土曜の学習活動日(14回/年)に、集中の間(途中から集中の館)と称した学年混合自習室開放を実施。1年生で、始業前に自教室以外で自習できる室を設定。(◎)</p> <p>・科学の甲子園3位(6人)、学生科学賞2位(4人、同)3位(2組6人)、情報オリンピック敢闘賞13人、情報オリンピック本戦1人、女性部門敢闘賞3人。(◎)</p> <p>・課題研究発表会はSS/LS合同実施、見学の一年生も全員出席として実施(延べ3回)。(○)</p> <p>・マフエスタ(全国数学研究発表大会)を本校主催で、実施し、全国から51校91発表、本校生を除く参加者約350人で実施。</p> <p>・数学勉強合宿を春季休業中に実施予定。OTTと称した自学する力をつける取組(通学+合宿形式)を実施。</p> <p>・オーストラリアエンパワメント研修を実施</p> <p>・昨年度海外研修代替として実施のエンパワメント修を引き続き実施。</p> <p>・1年京大研修、2年阪大研修を実施。 GL 生徒85.0%教職員74.0%、SSHは生徒84.9%教職員86.0%となり、生徒の肯定度は2年連続で上がったが、教職員の肯定度は2年連続で下がっている。 生徒(◎)教職員(△)</p> <p>・進路検討会議の実施(○)、1月の共通テスト後の講習を、個別試験対策を強化し実施(○)。</p> <p>・国立大学進学者:65.6% (◎)</p> <p>・スピーキングテストは延べ10回実施。(◎)</p> <p>・外部検定受験者数は、A2をクリアしている。(○)</p> <p>・ICTについては、学校教育自己診断肯定度は、生徒88.9%、教職員84.6%となり、昨年度伸びた数字が下がっている(△)</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2. 豊かな人間性の涵養 喜びを知り、真摯な取り組みを称え合う経験の積み重ねから、豊かな人間性を涵養する学校</p>	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 学校行事や自治会・部活動の取組み充実</p> <p>イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上</p> <p>ウ 教育相談と通級指導の連携による生徒支援の充実</p> <p>エ 人権尊重の意識の向上</p> <p>オ 図書館の活用促進</p>	<p>ア 行事と自治会・部活動の充実</p> <p>① コロナ対応でできず経験した生徒がいない行事などを復活・再構築により充実させる</p> <p>② 歓迎行事を充実等により部活動入部を促進する</p> <p>イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上</p> <p>① 5分前集合の徹底により遅刻欠席を減少させる</p> <p>ウ 生徒支援の充実</p> <p>① 教育相談体制を充実させる ② 通級指導教室での支援を充実させる</p> <p>エ 人権HRなどの充実</p> <p>① 仲間の思いのわかる集団作りを進める ② いじめや人間関係トラブルへの組織的対応</p> <p>オ 図書館の活用</p> <p>① 委員会活動の活性化と利用促進</p>	<p>・学校教育自己診断の肯定度の向上[HR85.8%、行事90.4%、自治会91.8%]</p> <p>・学校生活満足度の向上[93.5%]</p> <p>・1年時部活動未入部率10%以下</p> <p>・遅刻者数の10%減少[3081回]</p> <p>・学校教育自己診断の肯定度の向上[95.1%]</p> <p>・SCによる相談活動20回[20回]</p> <p>・通級指導の校内体制の充実</p> <p>学校教育自己診断の肯定度の向上[人権学習95.2% いじめ対応93.0%]</p> <p>・委員会活動実績と人数の維持[35人]</p>

府立大手前高等学校

				など、工夫を重ねている。 (◎)
3. 日々の教育活動に加え、充実した海外プログラムなど 得る人間の育成を期す学校	(3) 社会貢献活動の推進 ア 社会貢献の意識の高揚 イ 国際感覚の向上 ウ 地域と連携した教育活動の充実	ア 社会貢献活動の充実 ① ボランティア体験活動の実施 イ 国際教育の推進 ① グローバルリーダー研修・語学研修等の海外研修の復活実施 ② 姉妹校や連携校との交流(国際科学会議) ③ 国内留学生との交流などの新企画の実施 ウ 地域との連携 ① 保育所等交流、弁護士会、税務署などの地域を舞台にした教育活動の実施	・地域関連清掃ボランティアにかかわる活動を生徒主導で計画し、参加人数の増加 [20人] ・各研修を実施し、同窓会のご協力により生活困窮生徒が参加できる仕組みを作る。 ・企画の満足度 90%以上[オンサイトでのエンパワメント研修満足度アンケート][100%] ・各取組みの実施 [R4は保育所交流はできず、NPO法人による親学習を実施]	・大阪城公園の管理者が変わり、ごみ一つ落ちていない状況となっており、清掃ボランティアをする余地がなくなっているため、学校周辺の歩道等清掃活動を実施。特に落ち葉の多い季節に、部活動・自治会の生徒が中心となり始業前に清掃活動を実施。10回以上延べ人数 300人以上。(◎) ・海外研修において価格が高騰する中、同窓会の支援を一律でなく生活困窮生徒と成績優秀生徒に絞って傾斜配分する仕組みを作った。支援生徒の肯定度は 100%。(◎) ・エンパワメント研修参加者アンケートの満足度 100% (○) ・コロナ禍の間 WEB で行っていたマスクキャンプを海外の講師を7名招き実施。 ・保育所交流はコロナ禍により引き続き未実施であるが、子育てアドバイザー協会の協力を得「親学習」を実施。弁護士会・税務署との連携活動は実施できた。中学校への説明会や出前講義実施。(○)
4 働き方改革の推進	(4) 働き方改革の推進 ア 校務処理の効率化	ア 校務処理等の効率化を進める	・時間外勤務の削減前年度比 10%減 [前年度比 15%増]	・前年度比 11%減 (○)